

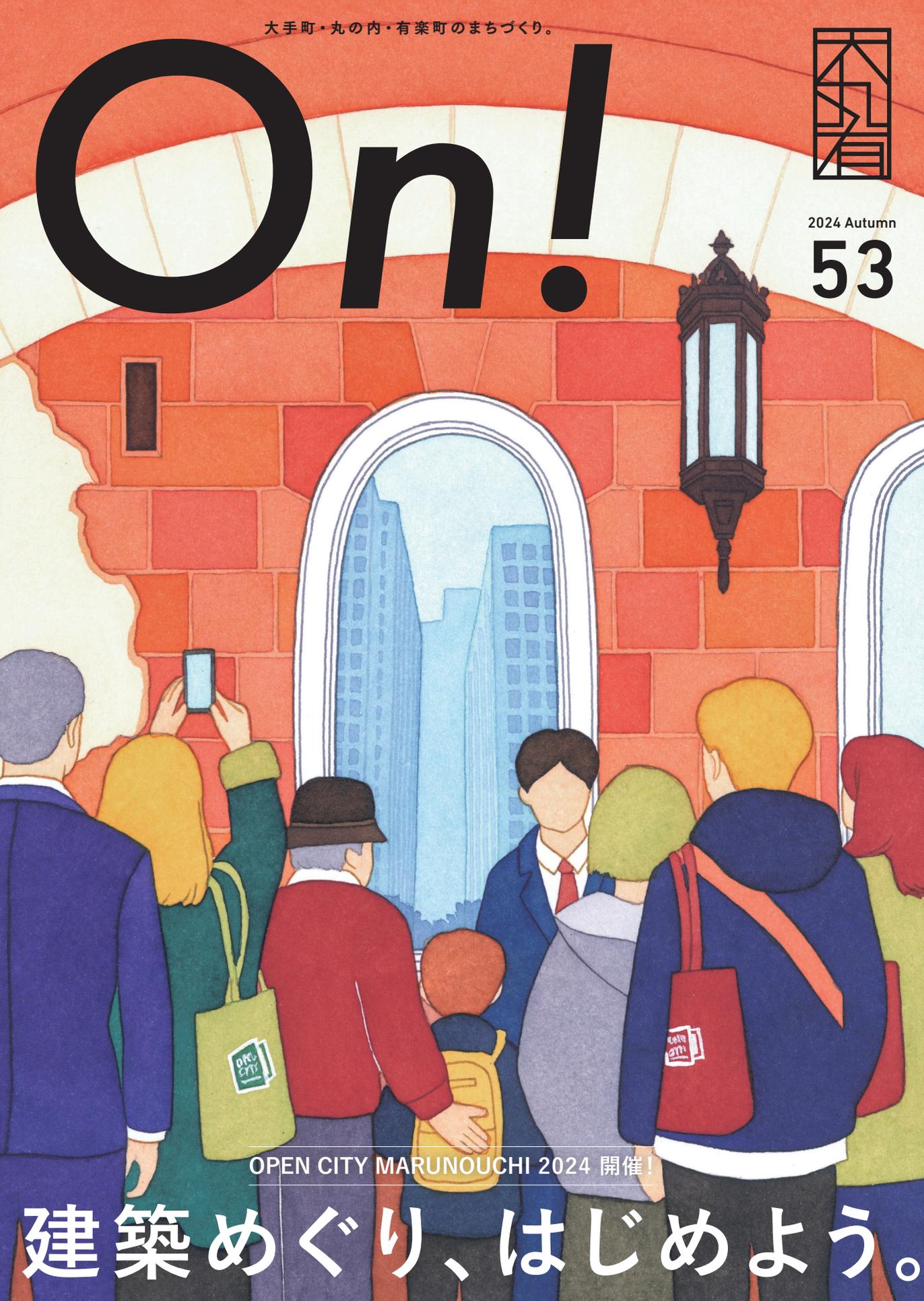
大手町・丸の内・有楽町のまちづくり。



2024 Autumn

53

On!



OPEN CITY MARUNOUCHI 2024 開催!

建築めぐり、はじめよう。

「TOKYO TORCH」街区の完成をイメージした模型で、ライトアップされている高いビルが現在工事の進む「Torch Tower」。街区内に立つ「常盤橋タワー」のほか、「大手町フィナンシャルシティ グランキューブ」、「MARK IS みなとみらい」など、松田さんは数多くの設計を手がけてきた。



超高層ビルにも開放感を。

——「Torch Tower」をはじめ、現在も「TOKYO TORCH」街区の開発が進んでいますが、松田さんが統率する設計室の役割とは、実際にどのようなものでしょうか？
松田 このプロジェクトは、大丸有エリアの中でも大規模な再開発事業であり、当然、私たちの持てる力を結集して実現させたいという思いがありました。とはいえ、これだけの規模だからこそ、自分たちだけでなく、次世代を担う3名のデザインアドバイザーとの協

働でやっていこうと。初の試みになるのですが、建築家の藤本壮介さん、永山祐子さん、ランドスケープデザインを手がける福岡孝則さんに参画していただいて、さまざまなアイデアを出し合いながら、これまで一緒に進めてきました。そのデザインチームを、私たちが取りまとめるとともに、全体の設計・監理を担当しています。
——「TOKYO TORCH」を構成する建築や空間について、それぞれの大きな特徴やチャレンジしている点を教えてください。
松田 まず「Torch Tower」に関しては、全体的に曲線を多用したつくりが特徴です。高層部に誕生する半屋外空間となる丘（SKY HILL）にホテルのロビーを設けるほか、低層部の外壁には「空中散歩道」を巡らせるなど、超高層ビルでありながら、ゆるやかに開放感を共有できる、多くの人にとって開かれた場所にしたと考えています。その足元に誕生したのが約7000平方メートルに及ぶ広場、「TOKYO TORCH Park」になります。もともとこの広場の地下にあった変電所を残すかたちで、安定した電力供給を実現するとともに、地上には緑に触れることのできる憩いの場をオープンしました。災害時や非常時には、近隣のワーカ―や来街者をサポートするスペースとして活用することも想定しています。



大丸有エリアの中でも、立ち並ぶ建築の美しさが際立つ日比谷通り。百尺（約31m）の高さを表情線としてそらえることにより、それぞれの建物が風格をたたえるとともに、連続性のある景観を実現している。

建築にはストーリーがある。

超高層建築となる「Torch Tower」の竣工を2028年5月に予定し、ますます注目が高まる「TOKYO TORCH」街区。その設計室長を務める三菱地所設計の松田貢治さんに、建築とまちづくりにかける思いや、建築を楽しむ視点について伺いました。



——美しい錦鯉が泳ぐ池（新潟県小千谷市との協業）があったり、平日は日替わりでキッチンカーが出店したりと、ちょっとひと息つくのも楽しいですね。

松田 東京駅から「TOKYO TORCH Park」を抜けると、日本橋方面まですぐ歩いていけるんですよ。ここ常盤橋から日本橋、神田、八重洲までつながる人の流れが生まれようとしている。そうした往来をきっかけに、地区同士の新たな共存共栄につなげていくことが重要だと思います。

ストーリーこそ糧となる。

——松田さんご自身としては、まちづくりに今後どのようなかたちで貢献していきたいと考えていますか？

松田 大丸有のまちづくりには、130年超の歴史があります。かつての旧丸ビル（丸の内ビルディング）は、内部に十字形のショッピングアーケードを開設して一般に開放した、画期的な建築でした。その精神はいまも受け継がれ、現在の丸ビルには「マルキューブ」という吹き抜けの大きな内部広場があって、



行幸通りからは、はるか先までを見渡すことができる。いくつもの超高層ビルと東京駅丸の内駅舎が対照的。新旧の建築が共存して、この景観が生まれている。



「丸の内ブリックスクエア」付近の丸の内仲通り。歩道にも車道にもアルゼンチン斑岩を使い、段差を少なくすることによって、空間としての連続性を高めている。



まちづくりのルールを踏まえながらも、新たなストーリーを付加したいと語る松田さん。設計を手がけた建築が、実際に建っていく醍醐味は計り知れないという。



丸ビル1階の「マルキューブ」は、幅、奥行き、高さがすべて約30メートルという、まさにキューブ状のアトリウム。ガラス張りで、丸の内仲通りとの一体感が心地いい。

©Taisuke Inatsugu



そこから丸の内仲通りへと入っていくことができます。丸ビルに限らず、この周辺にはパブリックなスペースが各所に点在していて、それらが足元でシームレスにつながっている。大丸有の素晴らしいさを共有してもらえよう。大丸有の素晴らしいさを共有してもらえよう。大丸有の素晴らしいさを共有してもらえよう。関係者の多くが心がけているからこそ、こうした環境を随所につくり出せているのだと思います。そうした建築を実際に使ってくれる人たちの喜ぶ顔や、いいねという声や、私にもによりうれしいです。

——建築として前例のない挑戦となる場合もあるかと思いますが、そうした新たな試みも含めてプロジェクトを実現させるためには、どのようなことが大切でしょうか？

松田 大丸有のまちづくりには、地権者や行政をはじめ、本当にたくさんの人々が携わっています。そうした中で建築設計のプランを組み立てていくには、ストーリーが必要です。関係者それぞれの意見や思いを束ねて、前に進めていくためには、誰もが納得できるストーリーが求められる。それを提示するのが、

私たちの役割だと考えています。「大丸有まちづくりガイドライン」に定められたルールを守りながらも、画一的な建築にならないように、それぞれの場所にまつわる文脈を読み解いて、アレンジを加えていくことも重要です。街の将来を見据えたマスタープランを描くということが、設計者としての大きな務めではないでしょうか。

建築を楽しむ視点とは。

——この秋に開催される「OPEN CITY MARUNOUCHI」(P.69参照)では、「TOKYO TORCHを知るツアー」も開催されるなど、建築を見学するプログラムが充実しています。大丸有には、魅力的な建築がたくさんありますね。

松田 大丸有エリアは、江戸時代に大名屋敷が並んでいたところの区割りが基盤となっているため、一つひとつの区画そのものが大きいのが特徴。これほど都市の骨格がしっかり残っている一帯は、日本でも数少ないと思います。いろいろな建築を見ることができそうですが、鑑賞する際にはポイントがあります。まず一つ目は、年代です。丸の内のオフィス街は、明治中期に建設が始まり、大正期を経て昭和初期に第一世代の街がほぼ完成しました。それから戦後の高度成長を背景に、「丸の内総

——たしかに、誕生した年が大きく異なる建築が並んでいることに気づくと、街の見方も変わってきそうですね。ほかにもポイントはありますか？

松田 三つ目は、建物同士をつなぐ外部空間に目を向けてみることです。一枚の絵でも、見方を変えるとまったく違う絵に見えることがありますよね。「図」は建物を追いかけるだけでなく、「地」は外部空間のほうに着目してみると新しい発見がある。建物ばかりでなく、パブリックなものに視点を移してみることがおすすめです。丸の内仲通りも、ぜひあらためて観察してみてください。アルゼンチン斑岩を使った石畳が敷かれているのですが、車道と歩道の段差をできるだけ小さくすることで一体感を生み出し、歩きやすい空間をつくりあげています。通りに掲げられた各種の案内板も、よく見るとデザインに統一感がある。誰にとってもわかりやすいようにつくられていることが確認できると思います。

合改造計画」によって第二世代の街へと生まれ変わりました。そして平成に入ってから、第三世代の街への再構築に着手し、現在も進行中です。創建された年代を追っていくと、明治の三菱一号館(復元)、大正の日本工業倶楽部会館(部分保存)、昭和初期の明治生命館や東京中央郵便局舎(部分保存)といった歴史的建造物のほか、昭和中期のモダン建築、平成以降のモダニズム建築と呼ばれるシンプルな超高層タワーまでが、同時に存在しています。それぞれの建築が竣工した年に着目してみると、時代ごとの流行も見えてきます。建物内外の形状や装飾、色使いなどから、建てられた当時に想像し、かつての街の姿に思いを馳せるのも楽しいかもしれません。

——街なかで気になる建物を見かけたときには、どこに注目をするとよいでしょうか？

松田 二つ目のポイントとなりますが、材料や構造です。壁や床などの材料に着目すると、つくられた時代が異なることがよくわかります。また、日本では古くから木造建築が主流としましたが、明治や大正には、東京駅丸の内駅舎のようにレンガを使用した西洋建築も登場します。近代以降は鉄、ガラス、コンクリートといった工業材料を用いた建築が主流となり、平成以降には超高層タワーが建てられてきました。そうした構造の違いから、建物の完成した時代が推測できます。



OPEN CITY MARUNOUCHI とは…

*プログラムによって開催日が異なります。P.9をご参照ください

普段は訪ねることや、見ることがなかなかできない、大丸有のさまざまな場所を見学できる体験イベント。2018年より、大丸有まちづくり協議会の事業として毎年開催し、数多くの企業、団体、施設の協力のもとに、見応えのあるプログラムを実現している。2024年は、10月31日(木)～11月2日(土)の期間で開催される。



辰野金吾が設計を手がけ、クイーン・アン様式が採用された。この「貴賓玄関」には、大の相撲好きであった辰野らしく、土俵入りを想起させる意匠が見られる。



「インベリアルスイート」*はホテル内で最も広く、内装のすべてに上質を追求した極上の一室。駅舎中央の3階に位置し、リビングから行幸通りを望むと、圧巻の光景が広がる。



東京駅やホテルの軌跡にまつわる100点以上の作品を、廊下に展示している「ヒストリーギャラリー」。3階建てと2階建ての駅舎をとらえた写真の対比が、激動の時代を物語る。

(写真右)廊下がとても長いのが大きな特徴で、ここは長さが76メートルにも及ぶ。エレベーターの近くにあるランプのみ目印として色を変えてあり、北側はグリーン、南側はオレンジ。

(写真左)3階建てに復原する際に、内装はヨーロピアン・クラシック調に改修した。「ドームサイドキング」*の窓からは、ドームの天井などを飾る美しいレリーフをずっと眺められる。



*実際にツアーで見学できる部屋とは限りません

命感にも支えられています」(同)

す。1945年の東京大空襲でドームや屋根などは焼けてしまいましたが、3階建てから2階建てに改修して駅舎として再建し、のちにホテルも営業を再開。2012年には創建当時の3階建ての姿に復原を果たして、いまに至ります。今回のツアーでもご紹介しますが、空襲の際に燃えてグレーに変色してしまったレリーフは、上塗りなどせず、ドーム内側の装飾にそのまま戻しました。歴史を物語る痕跡をあえて生かし、現代のものとの違いがわかるようにしています」(ホテルスタッフ)

客室内に入ってみると、とても静かで心が落ち着く。ヨーロピアン・クラシックを基調として部屋ごとに趣向を凝らした内装も、どこか温かみを感じられます。

「壁の色やモルディング、照明、じゅうたんなど、どこの一部分を切り取っても『東京ステーションホテル』だとすぐにわかります。駅舎の中にあるながら、ホテル内に足を一歩踏み入れると別世界が広がっている。まさしく特別なこの空間を、私たちが後世に継いでいかななくてはという使命感にも支えられています」(同)



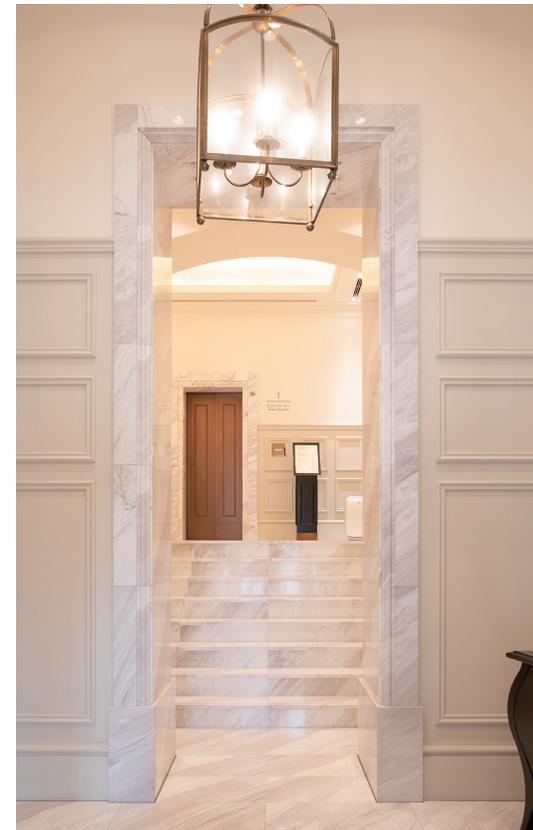
OPEN CITY MARUNOUCHI 2024 開催!

大丸有で建築めぐり。

OPEN CITY MARUNOUCHI(以下OCM)の開催が、今年もいよいよ迫ってきました。建築や空間の面白さを体感できる、絶好の機会。まずは、2つの注目ツアーからご紹介します。

(写真右)「アーカイバルコニー」では、ドームの天井や内壁の見事な装飾を近くから鑑賞できる。アーチ内などに点在するグレーの部分は、空襲で焼けたレリーフを元の位置に戻したもので、南側のドームにしかない。このツアーでは、通常は宿泊者しか足を運べないこうした場所を案内してもらえます。

(写真左)メインエントランスの北側に位置する、宿泊者専用のコンパクトなエントランス。上品なホワイトグレーに統一され、高い天井、磨き抜かれた床と階段、モルディングをあしらった壁などの内装が、美しく調和している。ヨーロッパの洗練されたブティックホテルのような雰囲気確かめていただきたい。



[東京ステーションホテル] 東京ステーションホテル - ホテルツアー

開催:10月31日(木)、11月1日(金)

5年ぶりの実施となる「東京ステーションホテル」のOCMプログラム。国の重要文化財である「東京駅丸の内駅舎」の中にホテルが現存していること、その唯一の成り立ちから生まれた建築・空間の魅力を、十分に堪能できるツアーです。

「この建物がなにより素晴らしいのは、一度も消失していない、ということだと思いま

全長335メートルにも及ぶ建物ですので、廊下の長さには驚いていただけないと思います。110年以上の歴史を持つ建物ならではの魅力を、ぜひお楽しみください。



OCMで街の魅力を再発見!

OPEN CITY MARUNOUCHIでは、多彩な建築ツアープログラムを開催予定。大丸有ならではの“名所”を探访すると、街の見え方も変わってくるはずです。

OPEN CITY MARUNOUCHIの参加申し込みはこちらから



10 東京會館 館内探検 10月31日(木)

2019年にリオープンした本館の宴会場やチャペルなど、通常は非公開の場所などを探検。初代本館・二代目本館から継承した意匠にも注目です。

11 写真家 大杉隼平と巡る 東京国際フォーラム -撮ることで伝える大切なこと- 11月1日(金)、2日(土)

建築物として高く評価されている「東京国際フォーラム」の造形美を、写真家の大杉隼平さんとともに、カメラでとらえながらお楽しみいただけます。

12 ザ・ペニンシュラ東京 -ホテル探案 10月31日(木) 1日2回開催

日本の伝統とモダンなデザインが融合した5つ星ホテル。洗練の客室をはじめ、さまざまなアートが点在するラグジュアリーな空間は必見です。

13 100年の歴史と未来が クロスする鉄道高架下ツアー 11月1日(金) 1日2回開催

明治から続く鉄道高架橋で知られる有楽町周辺は、再開発が進行予定。街の未来を想像しながら、内幸町から常盤橋までの高架下を歩きます。

5 鉄鋼ビルディング探検 ~知られざる歴史~ 10月31日(木)、11月1日(金)

6 丸の内ホテル 館内ツアー 10月31日(木)

1924年の開業から、まもなく100年。レストランをはじめ、館内のインテリアやアート、来年のリニューアルに向けて工事中の新客室を案内予定。

7 東京駅の工事で歴史を巡るツアー 10月31日(木)

駅の誕生から現在に至るまでの改良工事の歴史や建築様式などを紹介。構内を歩きながら、JR東日本の建設部門の担当者が解説します。

8 東京ステーションホテル -ホテルツアー- 10月31日(木)、11月1日(金)

9 CBREオフィス探検 11月1日(金)

世界最大の不動産サービス会社「CBRE」の東京オフィス。健康に配慮した設備がそろい、社員が快適に働ける次代のワークスペースを見学します。

1 丸紅の社屋案内ツアー 10月31日(木)、11月1日(金)

先進技術を導入し、2021年2月に竣工した総合商社「丸紅」のオフィスビル。普段は一般公開していないフロアを中心に案内します。

2 読売新聞探検! 11月2日(土) 1日2回開催

国内トップの発行部数を誇る「読売新聞」の編集部を公開。12階の屋上庭園や、都心を一望できる32階のレセプションルームなども見られます。

3 Hotel in Residence -[アスコット丸の内東京]で 理想のライフスタイルを発見 10月31日(木)、11月1日(金)

日本ではまだ馴染みの薄い「サービスレジデンス」を体験。家でもなくホテルでもないけれど、自宅のように寛げる、居心地のよい空間が広がります。

4 TOKYO TORCHを知るツアー 10月31日(木)、11月1日(金)

2028年に完成予定の「TOKYO TORCH」。常盤橋タワー内の就業者専用食堂やラウンジなどを見学しながら、プロジェクトの全貌をたどります。

[鉄鋼ビルディング]

鉄鋼ビルディング探検~知られざる歴史~

開催:10月31日(木)、11月1日(金)

鉄鋼ビルディング 千代田区丸の内1-8-2



(写真右)本館屋上のヘリポート。記号の「R」はレスキューを意味する。ヘリコプターは離着陸できず、ホバリングしてタラップを垂らし、支援物資の輸送や救助作業等にあたる。ちなみに「H」はヘリポートを意味し、離着陸が可能。レール状の設備は、窓ガラス清掃用のゴンドラを動かすときに使用する。

(写真左)備蓄倉庫は本館の地下3階に。大規模災害時の帰宅困難者を受け入れられるよう、水、食料品、毛布、簡易トイレ、ベビー用品のミルクなど、さまざまな防災用品がそろい。水や食料品は定期的な入れ替えのタイミングでフードバンク活動団体に寄付し、食品ロスの削減にもつなげている。

1951年の竣工以来、ビジネスセンターとして日本経済を支える「鉄鋼ビルディング」。2015年にサービスパートメント、羽田・成田空港直結のリムジンバスターミナル、商業施設などがそろうインテリジェントビルとして生まれ変わりました。OCMプログラムでは、戦後復興の象徴として誕生した歴史や全面建て替えに至る背景、ビルが有する機能や設備を紹介。テナント企業の方やビルの利用者でも、普段は立ち入ることのできない場所を中心にご案内します。

「当ビルは入居者・利用者の快適性・健康面などの向上に努め、災害時には安心・安全な防災ビルとして使えるよう、先進の技術を取り入れています。その一つが、巨大地震に備えた『中間層免震構造』です。3種類の免震材料を建物の中間部に設け、揺れを最小限に抑えます。『もしも』のときのために『備蓄倉庫』も整備。帰宅困難者受け入れのための飲食物や各種防災用品を常備しています。屋上にはヘリポートを設置。緊急時の医療・物資搬送に備え、大丸有エリアの救助機能を高める目的も果たしています。旧ビルの面影を残すエレベーターホールやオフィスメインエントランスの意匠もご覧いただき、戦後から続くビルの歴史の一端を感じていただけたいと思います」

建物のつくりについてはもちろん、現代のオフィスビルに求められている設備や機能、環境保全のための取り組み、街との関わりなど、興味のあることは遠慮なく、なんでも聞いてください。



株式会社 鉄鋼ビルディング 取締役 増岡洋志さん



ビルは本館と南館の2棟構成で、本館は3階と4階の間、南館は5階と6階の間に中間層免震構造を採用。「U型鋼材ダンパー(左)」「オイルダンパー(右)」「天然ゴム系積層ゴム支承」の3種類の免震材料が、地震のエネルギーを抑制。免震層から上の階の揺れを吸収する構造となっている。

大丸有の とって おき。

“素敵な建物でおいしい朝食を”

FRENCH RESTAURANT pomme d'Adam

店名 フレンチレストラン ポム・ダダン (丸ノ内ホテル)



メニュー アメリカンブレイクファースト



開放感のある席で、
選べるメインと
ブッフェ料理を。



2004年の丸の内オアゾに移転リニューアルから20年、大正時代の開業から今年で創業100年となる丸ノ内ホテル。8階のフレンチレストラン ポム・ダダン(フランス語:のどぼとけの意)は、東京駅側に開けたテラスを有する、明るく開放感のある空間です。朝食は、ブッフェとメインプレートを組み合わせたスタイル。「朝食に野菜をおいしく食べていただきたい」と話す染谷良和シェフ。ブッフェボードには、サラダ用の野菜やサーモン、ハム、トッピングの食材が並び、奥には、スープに温野菜の品々がそろっています。「10種類のメインプレートにも力を入れています」。卵料理を中心に、クロックムッシュやフレンチトーストもあります。席に着いたら、メインプレートをオーダーしてドリンクなどをピックアップ。好みのブッフェ料理を楽しんだら、できたてのメインプレートがやってきます。メインを堪能した後は、デザートとエスプレッソで朝食の余韻を楽しむのもおすすめです。



アメリカンブレイクファースト 1名様4,235円(税・サービス料込)

- ①10種類あるメインプレートからエッグベネディクトをオーダー。コーヒーやオレンジジュースなどもドリンクコーナーより ②ブッフェボードには野菜を中心に冷菜、温菜が並びます
 - ③ブッフェボードより、好きな野菜を取り合わせたサラダやハム、サーモンなどの冷菜
 - ④ブッフェボードより、ベーコンやソーセージに、温菜、スープ(温菜コーナーのカレーライスも隠れた人気の一品) ⑤ヨーグルトやフルーツ、デザートもそろっています
- ブッフェボードのみ1名様3,025円(税・サービス料込)もあります。

ポム・ダダン シェフ 染谷良和さん



たくさんの野菜と
さまざまな料理を
ご用意しています。
朝食の時間をゆっくりと
お楽しみください。

THE LOBBY LOUNGE

店名 ロビーラウンジ (東京ステーションホテル)



メニュー ムニユ ナチュラル



落ち着いた空間で
ゆっくり楽しむ、
軽やかな朝食。

2つのドームを有する歴史的な建物内にある、東京ステーションホテル。その1階にロビーラウンジがあります。英国リッチモンド・インターナショナル社によるクラシカルな落ち着いた雰囲気の空間で、セットメニューの朝食を楽しむことができます。「4階のゲストラウンジ・アトリウムではブッフェスタイルの朝食を提供していますが、ロビーラウンジでは、席に座ったままゆっくりと朝食を召し上がっていただける、コンチネンタルスタイルをご用意しています」と石原雅弘総料理長。英国調の空間に合わせて、目覚めに熱い紅茶を選び、ジュースやフルーツのプレートをいただいてから、契約農家から送られる新鮮な野菜のサラダとオードブルの品々、パンを楽しんで、最後はプチスイーツという流れで、静かな朝食の時間を過ごすことができます。「一緒にスープを召し上がる方も多いです」。バランスの取れた食事と心地よい空間でのひとときから、一日が始まります。



東京ステーションホテル ロビーラウンジ
千代田区丸の内1-9-1
TEL: 03-5220-1260
営業時間: 8:00~20:00(19:30 LO.)
朝食8:00~10:00 LO.
定休日: なし
席数: 76席



ムニユ ナチュラル 3,700円(税・サービス料込) *平日

- ①メインのオードブル取り合わせ*1(中央にフレッシュサラダ、下から時計回りに小海老のサラダ、スモークサーモン、トマト&モツアレラチーズのカプレーゼ、パテド・カンパニュ、ピクルス、生ハム)、パン3種、ジャム&バター ②最初に出てくるヨーグルト、フルーツの取り合わせ、東京牛乳、オレンジジュース ③こだわりの紅茶はアッサム、ダーズリン、ウバ、アールグレイから(こだわりのコーヒーもあります) ④充実の朝食はプチスイーツで締めくくり ⑤クラシカル・モダンな空間が魅力的 *1季節によって内容を変更することがあります
- +700円(税・サービス料込)で「本日のスープ」をつけることができます。土・日・祝は、ムニユ ナチュラル 本日のスープ付き 4,400円(税・サービス料込)のみになります。いずれもオンライン予約が可能です。



ゆっくりと朝の時間を
過ごされたい方にぜひ。
穏やかに流れる休日の
ひとときもおすすめです。

東京ステーションホテル 総料理長 石原雅弘さん

ハニワと土偶があの時代、この時代に。

ART&CULTURE

待望の再開館！「不在」はそこにある。



津島寛道(ハニワ) 1953年和歌山県立近代美術館

東京国立近代美術館 ハニワと土偶の近代

日本各地で太古の地層から出土したハニワや土偶。その数々がこれまで創作のモチーフとして、さまざまに生かされてきた。絵画や彫刻のみならず、多様な作品を通じて、考古学の領域外にあるハニワと土偶の変遷をたどる。

- 会場：東京国立近代美術館
千代田区北の丸公園3-1
050-5541-8600(ハローダイヤル)
- 会期：開催中～12月22日(日)
- 展示時間：10:00～17:00
(金曜・土曜は～20:00)
- 休館日：月曜(ただし10月14日、11月4日は開館)、10月15日、11月5日

大丸有でアートもカルチャーも。

東京ステーションギャラリー テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする

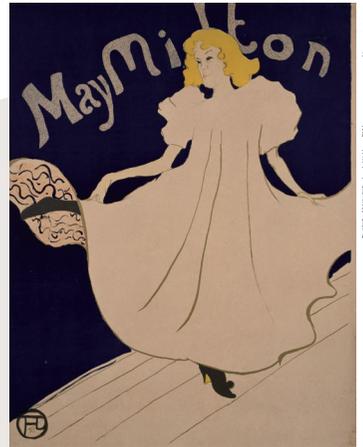
イギリスの生活文化に大きな変化をもたらしたサー・テレンス・コンラン。彼がデザインに関わったテキスタイルや家具をはじめ、発想の起点となった愛用品や著書など、300点以上の作品や資料を公開し、その人物像に迫る。

- 会場：東京ステーションギャラリー
千代田区丸の内1-9-1
03-3212-2485
- 会期：10月12日(土)～2025年1月5日(日)
- 展示時間：10:00～18:00(金曜は～20:00)
- 休館日：月曜(ただし10月14日、11月4日、12月23日は開館)、10月15日、11月5日、12月29日～2025年1月1日

コンランが見いだしたデザインの力とは!?



改修されたミシュランビル(レストラン「ピバンダム」とザ・コンランショップ 1987年改修)
Courtesy of the Conran family



アリド・トゥールーズ・ロートレック(メイ・ミルトン) 1895年リトグラフ/紙(二色) 号館美術館蔵

三菱一号館美術館

再開館記念

「不在」—トゥールーズ＝ロートレックとソフィ・カル

メンテナンスのための長期休館を経て再開館。フランスが誇る二人の作家の展覧会が開催される。トゥールーズ＝ロートレックの版画やポスター、オディロン・ルドンの《グラン・ブーケ》から着想したソフィ・カルの作品も世界初公開。

- 会場：三菱一号館美術館
千代田区丸の内2-6-2
050-5541-8600(ハローダイヤル)
- 会期：11月23日(土・祝)～2025年1月26日(日)
- 展示時間：10:00～18:00
(祝日・振替休日を除く金曜、第2水曜、展覧会開催中の最終週平日は20:00まで)
- 休館日：月曜(ただし11月25日、12月30日、2025年1月13日、1月20日は開館)、12月31日、2025年1月1日

出光美術館 「日本・トルコ外交関係樹立100周年記念 トプカプ宮殿博物館・出光美術館所蔵 名宝の競演」11月2日(土)～12月25日(水)

インターメディアテク 「特別展示 in Vitro? in Vivo! 写真家立木義浩×東京大学」10月26日(土)～2025年1月19日(日)

静嘉堂文庫美術館 「特別展 眼福—大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粋」開催中～11月4日(月・振休)

東京国立近代美術館 「所蔵作品展 MOMATコレクション」開催中～12月22日(日)

東京ステーションギャラリー 「生誕120年 宮脇綾子の芸術 見た、切った、貼った」2025年1月25日(土)～3月16日(日)

丸紅ギャラリー 「格式の美—丸紅コレクションの能装束—」開催中～10月26日(土)

三菱一号館美術館 「オーブリー・ピアズリー展(仮称)」2025年2月15日(土)～5月11日(日)

On!
2024 Autumn

『On!』のタイトルは「Old but New」の頭文字に由来するものです。新旧の魅力がともにあり、常に前進を続ける大丸有エリアのまちづくり情報やおすすめスポットをご紹介します。

発行
一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-1-1
TEL 03-3287-6181 FAX 03-3211-4367
<https://www.tokyo-omy-council.jp/>



『On!』のバックナンバーの閲覧はこちらから



大丸有まちづくり協議会のInstagramはこちらから

